

しお たに よし こ
潮谷義子さん

学校法人日本社会事業大学理事長

PROFILE

1939年佐賀県生まれ。日本社会事業大学社会福祉学部卒業。3人の息子はおの独立。現在、熊本市社会福祉協議会会長。



シ
ュ
バ
イ
ツ
ァ
ー
が
私
の
原
点
！
皆、世の中の構成員として
平等に活動できる社会づくりを

学校法人日本社会事業大学

東京都清瀬市竹丘3-1-30

TEL : 042-496-3000

URL : <http://www.jcsw.ac.jp>

輝きの軌跡

潮谷義子さんの
キャリアストーリー

2012年	2009年	2008年	2000年	1999年	1972年	1964年	1962年
日本社会事業大学 理事長に就任	長崎国際大学学長に 就任	熊本県知事を退任。 熊本大学客員教授。 熊本県立大学客員 教授	熊本県知事に就任。 日本で2人目の女性 県知事に	熊本県副知事	慈愛園乳児ホーム 勤務	結婚 大分県社会福祉主事 大学時代の同級生と	佐賀県社会福祉主事

—社会福祉を志したのはなぜですか。

潮谷 宗教家であり、医者でもあったアルベルト・シュバイツァーへの憧れからです。中学時代、英語の先生から聞いた彼の話に興味を持ち、黒人のために自分を捧げる姿に胸を打たれました。この憧れが、進路として社会福祉の道につながり、それ以来ずっと私のライフワークです。

—熊本で初の女性県知事を務めました。出馬の経緯は？

潮谷 女性が政策方針決定の場に出ることはすごく大事という思いがあったからです。熊本の女性たちの支援も大きかったですね。熊本出身ではない上に資金が少なく、最初にそのお話を頂いた時は「絶対出ない」と逃げ回っていたんです(笑)。しかし出馬の可能性を知った女性らによっていくつもの支援団体が立ち上がり…。その気持ちに応えたい一心で、出馬・当選することができました。

—知事在職中、福祉の経験はどう生かされましたか。

潮谷 福祉を通して「当事者こそ中心」ということを学びました。男性も女性も、障がいがあっても高齢でも皆、同様に「熊本県民」。そんな県民中心の政策を進めることができました。例えば「ユニバーサルデザイン」を県

の基本政策に置き、その考えが熊本で定着したのもこの時期です。私が目標として掲げていたのが、「人間として」男女が平等に、義務や責任を持てる社会づくり。「どのような立場に置かれている人も、平等に社会の構成員として見る」という視点は、まさに社会福祉の現場で学んだことです。—女子学生には、どのような姿勢で社会に出ていってほしいですか。

潮谷 今の女子学生は、社会に出てキャリアを築きたい人と、親が共働きで大変そうだったから主婦になりたい人と、二極化しているようです。後者は特に、共働きが大変な根本的な理由を見つめることが大切。子育てや家事は、生きる上で意味合いの深いことです。それを「男女ともに経験することが大事」という発想を持って、世の中に出てほしいですね。

くよくよしていたらチャレンジはできません!!
私の場合、のん気な性格が長所なのかも？



取材担当

熊本大学3年
砂岳佳菜恵